自然災害時対応マニュアル

放課後等デイサービスセンターあした

- 地震
- 火災
- 台風
- 水害
- 大雨

地震発生時

１．机の下にもぐる。

第一に利用者、職員の身の安全を確保する。

(可能ならば玄関ドアや窓を開ける)。

あわてて外に飛び出さない。

２．誰がどこにいるかを把握する。

トイレ、施設外活動（散歩、公園など） 等点検し、全員の所在を確認する。

３．施設の被害状況（危険箇所）の把握。

４．安全確保

けが人がいたら応急処置にあたり家族及び関係者へ連絡（電話、メール配信）

状況を把握しながら送迎を行う。

もしくは「有事の際は送迎に出ず、避難先で家族の迎えを待つ」など、

事前に取り決めし、個別対応の困難が予想されることを家族及び関係者に周知しておくことが必要。

５．状況により、地域の避難所へ避難する。

利用者の荷物、履物に不備がないかを確認し、近隣の学校等避難所へ避難する。

家族に連絡がつく携帯電話を忘れずに持っていく。 職員は必ず複数対応とする。



【地震の心得１０カ条】

１．机の下にもぐる。

第一に利用者、職員の身の安全を確保する。 あわてて外に飛び出さない。

落下物からの身の安全を確保する。(可能ならば玄関ドアや窓を開ける)。

２．すばやく火の始末

大地震で最も恐ろしいのは火災。地震を感じたら落ち着いて、冷静にすばやく火の始末。

３．火が出たらまず消火

万一出火した場合には、初期のうちに火を消すことが大切。

周囲に声をかけあい皆で協力して初期消火に努める。

４．あわてて外に飛び出ない

屋外は屋根瓦、ブロック塀、ガラスの飛散など危険がいっぱい。

揺れがおさまったら外の様子を見て、落ち着いて行動する。

（外へ出るときは、可能な限り帽子やヘルメットや頭巾などをかぶって出る）

５．危険な場所には近寄らない

狭い路地、塀ぎわ、ブロック塀の傍など、危険な場所にいるときは急いで離れる。

７．正しい情報で行動

テレビやラジオ、防災機関からの情報で行動し、デマに惑わされないよう注意する。

８．人の集まる場所では冷静な行動を

あわてて出口や階段に殺到せず、職員の指示に従う。

９．避難は徒歩で、持ち物は最小限に

避難は自動車、自転車は使わず徒歩で。

また、身軽に行動できるよう荷物は必要最小限にとどめ、背負うなどして両手をあける。

忘れ物をしても建物には戻らない。

10．自動車は左に寄せて停車

カーラジオの情報に注意し、勝手な走行はしない。

また、走行できない場合は左に寄せて停車し、エンジ ンを止める。

車を離れて避難する時は、キーはつけたままで、ドアロックもしない。

※送迎マニュアルを参照

※一度避難した者が、忘れ物等のため、再び入ることのないように注意する。

※大事な荷物がある場合は、管理者が取りに戻る。

火災発生時

１．火災発生

コロニー協会　総務課より「火災場所と避難場所」の放送あり

２．初期対応

職員は利用者を落ち着かせ煙を吸い込まないようハンカチで口を押さえさせる。

トイレ、施設外活動（散歩、公園 など）等点検し、全員の所在を確認する。

３．姿勢を低くして避難する

全員で施設外へ避難する。姿勢を低くして避難する。

４．安全確保し、家族及び関係者へ連絡（電話、メール配信）

「有事の際は送迎に出ず、避難先で家族の迎えを待つ」など、事前に取り決めし、個別対応の困難が予想されることを家族及び関係者に周知しておくことが必要。

５．状況により地域の避難所へ避難する。

利用者の着るもの、履物に不備がないかを確認し、近隣の学校等避難所へ避難する。

家族に連絡がつく携帯電話を忘れずに持っていく。職員は必ず複数対応とする。

※一度避難した者が、忘れ物等のため、再び入ることのないように注意する。

【消防計画について】※運営規定参照

防火管理者　　：大島　武文（理事長）・後藤工場長（隊長）・川越施設長（副隊長）

通報連絡担当者 ：総務課

初期消火担当者 ：守田

避難誘導担当者 ：塩原

【火気設備器具について】

① 火気設備器具の周辺は整理整頓を心がけ、可燃物を置かない。

② 火気設備器具は、常に監視できる状態で使用し、その場を離れる時は必ず消す。

③ 火気設備器具にある取扱い上の注意事項を守り、故障又は破損したままで使用しない。

④ 地震時には、火気設備器具の使用を中止する。

⑤ 終業時には、火気設備器具の点検を行い、安全確認をする。

【喫煙について】

① 喫煙する場合は所定の場所で行うこと。

【避難施設の維持管理について】

① 避難口、廊下、階段、避難道路には避難の障害となる設備を設けたり物品を置いたりしない。

② 扉の付近には、常に閉鎖の障害となる物品は置かない。

【放火防止対策について】

① ゴミ類の廃棄可燃物は、定められた時間に、定められた場所に持って行く。

② 事業所外の不審者に対しては、注意を払う。

【火災時対応】

① 通報連絡 ・ １１９番通報します（火災か救急かの種別、所在、目標、火災の内容など）

② 消火活動 ・ 消火器を使って消火活動を行う。

③ 避難誘導 ・ 避難口（出入り口）を開放し、避難口まで利用者を誘導する。

台風

１．台風発生

・接近に伴う暴風警報・大雨警報・洪水警報または特別警報が発表された場合。

・学校が休校の場合及び発令が 12 時現在継続（学校休日は９時）

２．対応

・デイサービスは、休業とする。
台風の場合は、事前に保護者から休校の連絡があることが多い。

・屋外の点検、窓や雨戸、窓ガラスなどを必要に応じて補強する。

・被害が予想される時や災害が発生した時は、市や消防署などが避難や災害の状況などに関する広報を行うので注意して聞き取る。

水害（ゲリラ豪雨・集中豪雨）

１．水害発生

・２階の教室にて待機。第一に利用者、職員の身の安全を確保する。
・風水害対策は気象情報の収集（線状降水帯、時間帯）
・ラジオ・テレビ・電話などで気象情報を正確につかむ。
・被害が予想される時や災害が発生した時は、市や消防署などが避難や災害の状況などに関する広報を行うので注意して聞き取る。

２．対応

・開業時に警報・注意報などが発令されている場合は、保護者に連絡を取り、早めのお迎えや送り届けを済ませる。
もしくは「有事の際は送迎に出ず、避難先で家族の迎えを待つ」など、事前に取り決めし、個別対応の困難が予想されることを家族及び関係者に周知しておくことが必要。

３．対策

・停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備する。
・気象情報を注意深く聞く。
・断水に備えて飲料水を確保する。
・全員で避難する（外出者がいれば必ずメモに残す）

【避難の目安 河川やその周辺】

・川の水かさが急に増え、流れが速くなっている。
・川が「ゴーゴー」と音を立てて流れ、川の中から「ゴロゴロ」と音がしている。
・道路の側溝などから大量の水が溢れている。
・川の流れがひどく濁り、流れの中に流木や大きな石が混じっている。
・水位観測所の水位が警戒水位を超えそうになっているがけとその周辺
・斜面から土砂が落ち始め、落石が発生している。
・斜面から水が吹き出し、流れ出していた水が急に止まった時。
・斜面に亀裂ができ、地鳴りが聞こえた時。

【時間の雨量と雨の降り方（目安）】

・　8～15 ミリ 雨の降る音が聞こえる。
・15～20 ミリ 地面一面水溜り。雨音で話声が聞き取りにくい。
・20～30 ミリ どしゃ降り。側溝がたちまちあふれる。
・30～50 ミリ バケツをひっくり返したような雨。
・50 ミリ以上 滝のように降る。

【風と被害（目安）時間の雨量 雨の降り方（目安）】

- 10m／毎秒 傘がさせない。
- 15m／毎秒 看板やトタン板が飛び始める。
- 20m／毎秒 小枝が折れる。
- 25m／毎秒 瓦などが飛び、テレビアンテナが倒れる。
- 30m／毎秒 雨戸がはずれ、家が倒れることもある。

大雪

１．大雪発生

・警報に関わらず、凍結や積雪量などの危険性が考えられるため、道路状況に合わせ、対応する。

・学校が休校の場合及び発令が 12 時現在継続（学校休日は９時）

２．対応

・休校になる場合には、12 時の時点（学校休業日は９時）でご家庭に連絡。

・送りの時間で、積雪が予想され、道路状況の混雑や通行止めなどが考えられる場合には、利用時間を変更するなど、柔軟に対応する。